

## 放送ストリーミング情報収載

### 放送ストリーミング情報【2024No.336】(HP 収載)

分類：ネットストリーミング

局等：Digital Concert Hall

作曲家：リヒャルト・シュトラウス

曲名：交響詩《死と変容》op. 24

演奏：ダニエーレ・ガッティ指揮ベルリンフィル

関連サイト：<https://www.digitalconcerthall.com/ja/concert/55051>

2024年2月2日ベルリンフィル大ホールでの演奏です。



ガッティがシェーンベルク、シュトラウス、ワーグナーを指揮

ダニエーレ・ガッティが後期ロマン派の3作品を指揮します。シェーンベルク《浄夜》では恋人たちの傷ついた心情が表現され、R・シュトラウス《死と変容》では、死にゆく男の感情と幻影が描き出されます。死をもって究極の救済を見出す愛を音にした楽劇《トリスタンとイゾルデ》は、まさに情熱が音楽となった作品。このコンサートでは、前奏曲と〈イゾルデの愛の死〉をお聴きください。

以上の他に下記が演奏されました。

アルノルト・シェーンベルク 《浄夜》op. 4 (1943年弦楽合奏版)

リヒャルト・ワーグナー 《トリスタンとイゾルデ》

前奏曲と〈イゾルデの愛の死〉

リヒャルト・シュトラウスの交響詩《死と変容》は、リヒャルト・シュトラウスらしく、華麗で色彩感あふれる曲です。複雑で壮大な音の構成の表現が印象付けられます。

シェーンベルクの《浄夜》は、十二音技法が適用される、1オクターブにある(ド～シの)12音全ての音を均等に使う作曲方法による曲として知られています。十二音を均等に扱うせいか、音の協和と不協和が混ざり合ったような印象を受けます。

ワーグナーの《トリスタンとイゾルデ》は、管弦楽の前奏曲と〈イゾルデの愛の死〉の演奏ですが、ワーグナーらしい悲劇的な表情が表現されています。

3曲とも複雑な音の構成の曲ですが、ガッティの指揮は淡々としているようで、重厚にまとめており、LAN アクチュライザーと Crystal EpL の導入で細部まで表現されています。



以上